

関川流域委員会

車座方式住民意見交換会 概要版

(本資料は議事録を集約したのです)

関川流域

下流

上越市西本町三丁目	・・・・・・・・	1
上越市稲田二丁目	・・・・・・・・	3
上越市島田	・・・・・・・・	5

上中流

妙高市上四ツ屋	・・・・・・・・	7
上越市中郷区板橋	・・・・・・・・	9
上越市板倉区南中島	・・・・・・・・	11
妙高市美守	・・・・・・・・	13
上越市清里区武士	・・・・・・・・	15
妙高市大鹿	・・・・・・・・	17
妙高市杉野沢	・・・・・・・・	19

保倉川流域

下流

上越市春日新田	・・・・・・・・	21
上越市安江2丁目	・・・・・・・・	23
上越市頸城区西福島2	・・・・・・・・	25
上越市頸城区望ヶ丘	・・・・・・・・	27
上越市頸城区榎井	・・・・・・・・	29

上中流

上越市三和区北代	・・・・・・・・	31
上越市浦川原区上岡	・・・・・・・・	33
上越市牧区高尾	・・・・・・・・	35
上越市安塚区真荻平	・・・・・・・・	37
上越市大島区細越	・・・・・・・・	39

にしほんちょう
上越市西本町3丁目自治会

関川
下流

■ 地区の紹介

- 150世帯 443人(平成15年7月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ JR直江津駅の北方、海に近い市街地です。
 - ・ 比較的古くからの市街地で商業施設のほか新旧住宅が混在しています。
 - ・ 町内には水路があり、700mほど離れた関川に注ぎ込んでいます。



通り

天王川

関川
(地区から約700m)



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 6 月 29 日（木）
- 場 所：町内会館
- 出席者：8 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ ここは旧直江津市で一番低いところで水害が多い ○ 天王川は水つきが多い。水位はスレスレで安心できない ○ 雨がやむとすぐ水位は下がる ○ 下水工事で日本海に出したが間に合わない ○ 荒川(関川)の出口部の砂を取り除く必要がある ○ 干満の差はないが、海から水が逆流している ○ 町内でも場所により感じ方が異なる ○ 保倉川の分流により関川も助かる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旧直江津市ではここが一番低い。 ○ 2回水つきにあった。水つきにあうと恐ろしい。 ○ 工場からの水が歩道に乗り上げる。雨が降るたびに心配である。 ○ 天王川は水つきが多い。 ○ イトヨーカドーの下を流れる。淀み、水位はスレスレである。 ○ 集中豪雨が原因で水害がおこるが、雨が止むと直ぐに川水が低くなる ○ ここは水害が多い。昭和 40 年に直江津駅が浸かった。それ以降は天王川が溢れている。イトヨーカドーの方は浸かる。下水工事で日本海に出してもらったが、間に合っていない。 ○ 2 年前に天王川で水害があった。昨年の雨でもスレスレで安心してられない。荒川(関川)の出口部が砂で埋まっている。神輿のつき場は 年に何回か掘ると聞いている。 ○ 海側に砂丘があるため、個々の土地に水が集中する。ここでははききれない。荒川出口を掘り下げないといけない。 ○ 太平洋側のような干満の差はないが、逆流している。これから、温暖化が進むと危険を感じる。 ○ 河川無しと分類されているが、被災はある。町内でも土地が高いところ、低いところなど、感じ方も違う ○ 保倉川の分流をお願いしたい。そうなれば、関川も助かると思う。
利水		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の頃は、関川で遊んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の頃は、関川で遊んだ。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ イメージする川は関川や天王川だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関川の河口部や荒川橋をイメージした。天王川をイメージした人も多かったと思う。

いなだ
上越市稲田2丁目自治会

関川
下流

■ 地区の紹介

- 72世帯 230人(平成15年7月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 高田中心市街地に近い関川下流の右岸にある古からの市街地です。
 - ・ 雁木通り沿いに商店街があり、北側は区画整理された住宅地になっています。
 - ・ 平成15年、河川敷が整備され、多様なレクリエーションの場として活用されています。



市街地



関川(神輿の川下り)



関川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 23 日（日）
- 場 所：稲田子供の家
- 出席者：8 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以前は水害を被っていたが、改修し現在の堤防になってからは安心である ○ 堤防を高くしたため、鴨島が水に浸かるようになった ○ 大雨の時、どのくらいの水位になるかわかるとよい ○ 川は生命と財産を守ることが一番重要である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在の堤防ができる前は水がついた。今は安心である。堤防が壊れるとは考えられない。(他1件) ○ 改修以前は河川敷に畑があり、2年に1回くらい水に流されていた。稲田小学校のグラウンドは水を一時的にためていた。 ○ 堤防を高くした為、鴨島が水に浸かるようになった。排水ポンプがつけば水がつかなくなる。(他1件) ○ 昔から住んでいる人は関川の水があふれても、水が浸かない所に住んでいる。 ○ 以前の河川改修で100年に1回の洪水は大丈夫と思った。 ○ 平成7年の水害後、上流は改修が進んだ。過去の水害から、どこまで水位が上がるのか情報を提供してもらおうと助かる。 ○ 雨の量で、どのくらいの水位になるかわかるといい。 ○ 笹ヶ峰ダムが水を出すと1時間で水がくると言われている。 <p>川は生命と財産を守ることが一番重要である。</p>
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田んぼにとって関川は命綱である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の場所が干ばつでも関川の水が入る田んぼは稲が枯れることはなかった。関川は頸城平野の命綱。ありがたい川である。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稲田には下水道がないため、排水が川に流入している ○ 関川の魚は種類が変化している ○ 昔は泳いだが、水質が悪化して泳がなくなった ○ 昔は堤に桜があり、川岸に土があつて遊んだが、改修してコンクリート護岸となり、親しめなくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11水害の時は、堤防ぎりぎりまで水がきて、とても臭かった。 ○ 稲田には下水道がなく、関川か用水に排水している。 ○ 下水道事業によりどのくらい水質が良くなるか、公開してほしい。 ○ 国は宮下用水の排水口に炭をいれて浄化を試みたが失敗だ。 ○ (以前は)ハヤなど背中が曲がっていた。 ○ 現在ハヤ、コイはいるがフナはいない。最近メダカが増えてきた。 ○ フナがいなくなったのは砂利原がなくなったこと、水路のコンクリート化が原因ではないか。 ○ 魚道については専門家の意見を聞かなくてはいけない。 ○ 小さい頃は橋から(川に)飛び込んで泳いだ。水面に泡がでてから泳がなくなった。水泳の出来る水質になれば良いと思う。 ○ ここは工業用水堰があるので流れない。灯笼流しをしても上流に向かって進んでしまう ○ 昔はよく川砂利を取った穴で遊んだ。 ○ 以前は関川で遊べた。工業用水取水堰ができて水深が深くなり浅瀬がなくなった。川に近づくなといっているようである。 ○ 一般住民が川に親しむ事はない。以前、本流から水を分けて水に親しむ場所を作ってほしいと要望したことがある。 ○ s40年頃荒川(現関川)には400本ほどの桜があつたが、川の拡幅でなくなった。殺風景である。桜でなくてもいいから植えてほしい。ただし、その木の維持管理を住民でというのは困る。 ○ 魚の住んでいる川は人の関心を引くのではないか ○ 関川に化石林があることをPRしてもらえれば、川に来るのでは。

■ 地区の紹介

- 97 世帯 401 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 上越市のほぼ南端にあります。
 - ・ 地区の東側を関川が流れ西側を国道 18 号が走ります。
 - ・ 道路に沿って集落が形成され、周囲には広大な水田が広がります。
 - ・ 関川には土盛の堤防が造成され、護岸には葦やスキなどが茂っています。



水田と集落



関川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 11 日（火）
- 場 所：島田会館
- 出席者：8 名

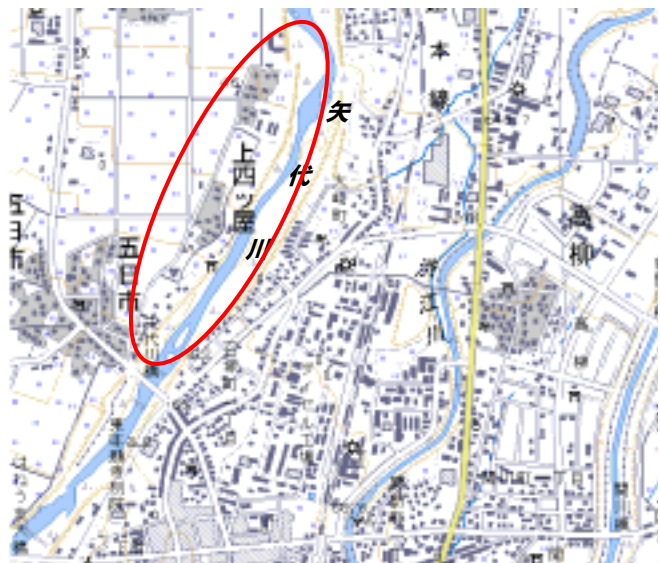
テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 災害時は、田に水が流れ込み、住宅の被害は免れた ○ 島田は堤防に囲まれており水の出口は1カ所だけである ○ 災害復旧事業で安全になり、水防活動は少なくなった ○ 霞堤のような知恵を取り入れたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川底が高くてよく水害にあった。 ○ 治水も大事だ。(他 1 件) ○ 7.11 災害時、月岡で決壊したおかげでこの辺の堤防は決壊せず、田に水が流れ込み、低地にある家が浸水しただけだった。田んぼが助けてくれた。 ○ 島田は堤防に囲まれた矢代川と関川の合流点で、水の出口は古川だけである。(他 1 件) ○ 災害復旧事業で堤防が高く川幅が広くなり、良くなった。実際、その後は水害を受けていない。 ○ 改修後は、出水時に堤防を見に行くことは少なくなった。主に台風時の見回りが多い。 ○ 十ヶ字用水の堰は立派だが住民は使い方を知らされていない。 ○ 昔は自宅の木を町内会に提供し、木流し等として堤防を守った。また、水防倉庫もあり水防活動をしていた。7.11 後も水防訓練はしている。(他 1 件) ○ 昔は霞堤があり、出水時は静かにゆっくり田に水が入り、稲は水に浸ってもあまり倒れなかった。そういう知恵を取り入れたい。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関川は利水の対象である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 島田地区は、「利水」として、関川に接している思いが強い。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水質は悪い印象がある ○ 昔は魚がたくさんいて川で遊んだ ○ 災害復旧工事後、川や生き物と触れ合えなくなった ○ 高水敷が広がったが、水の流が速くて怖く、遊べなくなった ○ 親しみのある川にして欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の頃、奇形の魚をよく見かけた。「変わった魚がいるな」程度の認識で、食べたこともある。 ○ 矢代川でさけの稚魚の放流を行っているが関川では行われぬ。関川は汚れているのではないか。 ○ 7.11 災害復旧後、親しみがなくなり川が利用されなくなった。 ○ 昔は川で遊んだ。ヨシキリ、蛍、ヨシ・アシ、魚などたくさんいた。(他 3 件) ○ 災害復旧工事で高水敷が広がったが、河に近づけなくなったため、魚や植物の現状を知る人が少ない。広場があると評価するのは高水敷が広がったから。草が生え、除草されていないので、学校等の教材としては利用できない。 ○ 水害前は水際に安全な所も危険な所もあった。今は治水上安全というが流れが速く怖い。孫と釣りにいっても水際には近づかない。川で子供を遊ばせて子守をするのは難しい。(他 1 件) ○ 上流の工業排水により、水質が悪いイメージがある。昔は、支川の矢代川、古川で遊ぶことが多かったが、現在は、三面張り護岸で行くことも少ない。 ○ 関川の工業用水堰には魚道があるが支川には少ない。本川が近づけない分、支川は親しめるようにして欲しい。(他 1 件) ○ 河川敷に桜を植えてもいいのか。花魁道中などできないものか

かみよつや
妙高市上四ツ屋自治会

関川
上中流

■ 地区の紹介

- 36世帯 119人(平成15年7月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 関川支流の矢代川左岸にある集落です。
 - ・ 新井市街地の中心から1kmほどです。
 - ・ 集落の西側は水田となっています。
 - ・ 河川敷には河原や草むらが広がります。
 - ・ 矢代川橋の南には矢代川水辺公園が整備されています。



集落



矢代川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 3 月 21 日
- 場 所：上四ツ屋公民館
- 参加者：23 名(女性 6 名)

テーマ	要 点	意見概要
治水		
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏に水が不足するのが最大の課題である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 矢代川の水量は季節により変化し、夏場に不足する。 ○ 水が欲しくても農業もあるのですぐには水を増やせない。 ○ 平成6年の渇水時は消雪用井戸水を水田に回した。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活排水が流れ込んでいないので比較的きれいである ○ 昔は川で遊んだが今は遊ばない ○ 昔はいろいろな魚がいたが、今は減った ○ 水が足りない。これから水量はどうなるか。水を確保する方策はないか ○ 冬は川が雪捨て場になり、濡筋ができることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活排水が川に流れ込んでいないのできれいである。使った水は田んぼに回している。 ○ 川があまりに身近すぎるので、なんとも思わなくなっている。 ○ 昔は水がきれいで川で遊んだが、今は遊べない。水が少ない。 ○ 子供の頃はプールが無かったので川で遊んだ。(昔は)ハヤ、アユ、カジカ、マスまでいた。 ○ 魚が減ったのは、用水の取り口がコンクリート製になり、きっちり水を取られてしまうことがあると思う。 ○ 環境を考えると、魚が棲める水量くらいは確保したい。(他 1 件) ○ (田んぼは)必要以上の水を取っているのではないか。 ○ 今は水が絶対的に足りないのではないか。妙高市の飲料用取水口もあり、水がなくなる。 ○ 最近環境・気候の問題があるが、水量は増えているのか。 ○ 雪ダムはなぜやめたのか。 ○ 冬は矢代大橋の上流が雪捨て場になっていて、水が走る(濡筋ができる)こともある。

いたばし
上越市中郷区板橋自治会

関川
上中流

■ 地区の紹介

- 43 世帯 136 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・**H 7** (**太字**の年に被災)
- 概要
 - ・ 新井市街地に近い田園地帯です
 - ・ 道路沿いの集落の外側に水田や樹林が広がります
 - ・ 地区の北側に渋江川が流れ、護岸はコンクリートブロックで固められています
 - ・ 地区内を農業用水路が流れています



集落沿道



渋江川



農業用水路

■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 8 日（土）
- 場 所：板橋ふれあいセンター
- 出席者：9 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宅地は大丈夫だが農地が水害の被害を受ける ○ 昔は必死で川を管理し農地を守った水の苦労は文化として伝える必要がある ○ 護岸が整備されていないところがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模な水害経験はない。 ○ 雪解けの水がつくことがある。 ○ 7.11 水害では怖い思いをした。 ○ 7.11 水害時は農業用水の堤防が切れたが、知らない人もいる。 ○ 水害で農地に水が上がったことは何度かある。若い世代では知らない人もいる。 ○ 上流に雨が降るとすぐ水が出て止むと引く。上流も問題がある ○ 60 才位までの世代は、水が出ると何とか農地を守らなければいけない感覚でいた。夜通し交代で川を見張った。次の世代はそうした意識がない。水の苦労は文化として次世代に伝える必要がある。 ○ 護岸整備されていない所もあり、役所に陳情しているが、災害が起きないと整備できないという。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業用水の確保が重要である ○ 農業用水の取水口など補修したい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川とのかかわりは農業用水だけである。 ○ 水不足で田に水が回らなかった。ここでは不足の方が重要。 ○ 板橋の川は農業用水のためであり、親しみのためではない。 ○ 農業用水を河川から取り込むところで問題を抱えている。 ○ 農業用水取水口の所が老朽化し、我々も負担して補修したいと考えている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水質が変化し、生き物も変わった ○ 昔は川で遊び魚を取ったが今はやらない ○ 河川改修してから蛍がいなくなった ○ きれいで魚や昆虫の棲む川にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川と水で遊べる場所があればよい。昭和 30 年代前半は、アユ、カジカも沢山いた。35～40 年頃にフナが増えた。 ○ 上流に「ニッソウ」、下流に「ダイセル」(工場)があり、昔はいろいろな問題があった。 ○ 昭和 30 年頃は川で遊び魚取りをしたが、今は誰もやらない。 ○ 昔は蛍がいたが改修してからいなくなった。今は水質が良くないらしい。蛍がいれば、子供、大人も川に近づきやすい。川に親しみやすいだけでなく、何かしなくてはいけない。 ○ 将来のため、川をきれいにし、魚、昆虫の住む川に近づきたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識を得て広い視野で考え、行動したい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 孫の代に繋げたい。参加していない人に呼びかけるのは我々の仕事。考えているばかりではダメ。知識を得て行動したい。 ○ 広い視野で考えないといけない。 ○ 関心を持ちたい(他 1 件) ○ 次の世代がどうするか。川の問題だが地域全体の話である。

みなみなかじま
上越市板倉区南中島自治会

関川
上中流

■ 地区の紹介

- 65 世帯 287 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・H 7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 板倉区の西端にあり、大熊川と関川の合流部に近く、一帯に水田が広がります。
 - ・ 北東部に集落が形成され、豊かな屋敷林のある民家もたくさんあります。
 - ・ 地区内を農業用水路が巡り、大熊川が近くを流れます。
 - ・ 大熊川の両岸はコンクリート護岸です。



集落沿道



広島橋から見た関川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 22 日（土）
- 場 所：南中島ふれあいセンター
- 出席者：12 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水害時、上流で堤防が切れてこちらに水がきた ○ 河川改修によりこの辺では安心感が増し、水防活動をしなくなった ○ 過去の経験を伝える活動も重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 当時は、上流で堤防がきれ、こちらに水が入ってきた。 ○ 河川改修後、このあたりでは水害に対して安心感をもっている。しかし、7.11 の時に切れた上流の堤防(二子島下流)は改修後でも、まだ低い。(他1件) ○ 7.11 改修後は、水防活動など行動していない。 ○ 過去の経験を伝えないといけない。私は、子どもをつれて、月岡の記念館(防災ステーション)に連れていくなどしている。
利水		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 前後で川の印象が違う ○ 水質は良くなっているのか ○ 堤防に広場など川と遊べる環境が必要である ○ 環境の良い川であるためには魚がいなくてはいけない ○ 生き物の住む川づくりには管理などの問題が絡む ○ 治水と親水でバランス良く、行政の横の連携をしっかりとっていくことが大切だ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 前後では、川に対する印象が大きく違う。改修して安全になったが、触れ合いにくい川になった。川に近づけなければ、関心もない。 ○ 昔は、工場から水銀が流れていると聞いたが、現在は下水道が整備されている。水質はよくなっているのか？ ○ 関川の水は、本当にきれいになっているのか。 ○ 川に親しもうというが、堤防の中に広場があるところが少ない。上流(妙高あたり)はまだ多いが下流は少ない。堤外地は草だらけで階段があっても危険だ。広場も危ない事の方が多い。 ○ 島田あたりまで孫と釣りにいく。サギがいて、魚がとれることを教えてくれる。親しめれば、川に関心もできる。子どもの頃はアユとりなどして遊んだ。もっと広場、親しめる環境が必要だ ○ 川に魚がいなくなった。昔はカラス貝などもたくさんいたが、今そういったものはいない。水を流すことを優先し淵などが無い。 ○ 川のめやす、環境のめやすは、川にどれだけ魚が住んでいるかではないか。魚が住んでいることが大事。国の政策が間違っているのではないか。 ○ 自然環境だけなら、川でなくても別の場所がある。 ○ ダム(堰)などには、ちゃんと魚道がついているのか。 ○ 生き物の住む川をつくるのはいいが、管理は誰がするのか。 ○ 改修で川の中が広がったのはいいが、木が育っている。倒れたりするものもある。川のイメージも悪いし、管理が心配。 ○ 川の浄化ということで砂利をいれたり、木を植えたりした。しかし、それで中州ができ、治水上の問題もある。治水と親水でバランス良く、行政の横の連携を図ることが大切。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川にもっと関心を持ってもらうような活動をしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出前講座などを活用し、川に関心をもってもらいたい。世代間で交流し、若い世代に受け継いでいくことも必要だと思う。

ひだのもり 妙高市美守町内会

関川
上中流

■ 地区の紹介

- 392 世帯 1205 人(平成 18 年 6 月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・**H7** (**太字**の年に被災)
- 概要
 - ・ JR 新井駅の東方約 500mに位置する住宅市街地です。
 - ・ 関川左岸に接し、地区内を水路が流れます
 - ・ 平成 7 年には大きな被害を受けました。
 - ・ 水害後改修され、関川の河川敷は芝生の広がる高水敷や河原となっており、親水性の高い空間となっています。

※アンケート調査は美守 3 丁目を中心に実施。

※意見交換会は美守町内会(1 丁目、2 丁目、三丁目)で実施。



市街地沿道



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 6 月 9 日（金）
- 場 所：美守町内会館
- 出席者：46 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 では恐ろしい思いをしている ○ 7.11 水害の要因は何か ○ 災害を防ぐためには、河川管理をきちんとする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 では恐ろしい思いをしている。 ○ H7.7.11 の水害はなぜ起こったか？ 笹ヶ峰ダムが欠陥ダムだからではないか？ ○ 美守は人が住む場所ではない。 ○ 水害前は河川整備されていなかった。子供の頃、川には大きな石がごろごろあった。もっと早く川底をさらってればこんな事にならなかった。 ○ 新保橋あたりの右岸側に木が多い。管理が悪い。県には管理してほしいと言っている。(他1件) ○ 左岸はきれいなのに右岸はダメだ。3日間洪水にあったものとしては我慢できない。
利水		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水質を悪化させているのはなんだろうか ○ 魚がないのはどうしてか ○ 社会情勢の変化とともに、河川整備のかたちも変わる ○ 草刈など住民が努力しているが行政の管理はどうなっているのか ○ 公園利用のマナー改善が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 白田切川はいつも濁っている。赤倉温泉が汚しているのでは？ ○ 町内には下水道が整備されたのに接続していない家がある。 ○ 魚がない。どうしてこうなったのか？ ○ 河川の汚水とのかねあいであろうが、毎年の調査結果で魚が食べられないのはなぜか。水辺に近寄るなど言われている。今日情勢が変わってきており、これにあった整備が必要。 ○ 7.11 水害後立派な川になった。住民で「美守水辺公園を愛する会」を造り草取りとかしている。これが好印象に寄与していると思う。地域の皆が犠牲を払って草取りをしているのに、堤防の草が多い。どんな管理をしているのか？ ○ 水辺公園の管理は大変。マナーを守れという看板がほしい。 ○ ニセアカシアなど外来種が目立つ。千曲川ではニセアカシアを柳に変えようとしているニュースを見た。
その他	○	○ 千曲川の事を記事で読んだ時に、国と県で管理が分かれているとなっていたが？

もののふ
上越市清里区武士自治会

関川
上中流

■ 地区の紹介

- 45 世帯(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H 7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 清里区の西端にある水田地域です。
 - ・ 神社を中心とした集落のまわりに水田が広がります。
 - ・ 高田中心部などへのアクセスが良いため周辺では宅地開発も行われています。
 - ・ 地区内には農業用水があるのみで、少し離れたところに榊池川が流れています。



集落沿道



水田と集落



用水路

■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 6 月 10 日（土）
- 場 所：武士集会所
- 出席者：7 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心はあっても、直接の被害がないのですぐ忘れてしまう ○ 流木が川を塞ぐことがないように雑木の管理をする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 木田や新井の水害など一時的に関心を持つことがあっても、直接の被害がないのですぐ忘れてしまう。 ○ 局所的な豪雨の中で、流木が川を塞いでいるのを見かけるが、すぐに除去する必要があるのではないかと。雁平川は、雨が降ると一気に水がでる。地域、ボランティアで雑木伐採をしていかないといけないと考えている。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用水は渇水時期にはほとんど水は流れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用水は渇水時期にはほとんど水は流れていない。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下水道工事が終わっていることもあって、水がきれいだというイメージがある ○ スギ人工林をブナ林に戻すことで水も良くなる ○ 粗朶沈床とはどういったものか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水質については下水は汚い、上流は水がきれいだというイメージがある。別所川もきれいだと感じる。魚も棲めるし、害はないのだろうが、下流は汚いと思う。ここはきれいだ ○ 関川上流から下水道事業が進んでいるのでここはきれいという思いがある。櫛池川流域は下水道工事が終わっている ○ 魚はいるが、本当にきれいなのか。 ○ 櫛池川支川の清滝川周辺ではブナ林が伐られて杉林になっている。山本来の姿に戻すことによって川の水もよくなると思う。 ○ 植林はしたけど手入れがされていないため、冬に杉が倒れる。本来は杉が育つような場所ではない。 ○ 昨年、環境にやさしい川づくりかなにかという名で、粗朶沈床が施行されていたが、どういったものか
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地区の住民が思う近くの川は櫛池川や用水 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地区の住民が思う近くの川とはどこだろうか。櫛池川や近くの用水だろうか

おおじか
妙高市大鹿自治会

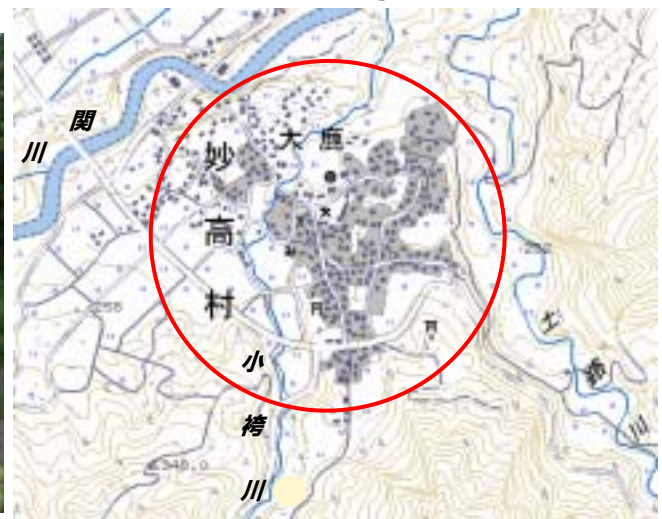
関川
上中流

■ 地区の紹介

- 161 世帯 544 人(平成 18 年 6 月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・**H7** (**太字**の年に被災)
- 概要
 - ・ 旧妙高市の北東部にある中山間地域です。
 - ・ 傾斜地に民家や農地が分布し、山あいの集落をつくっています。
 - ・ 民家や道路から離れたところを小袴川、土路川が流れています。
 - ・ 近くに関川が流れています。



関川



農地と集落



小袴川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 7 月 3 日 (月)
- 場 所：大鹿克雪管理センター
- 出席者：9 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短い川なので、降ると一気に水がでる ○ 7.11 水害後の改修で治水はよくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小袴川上流にパインバレーがある。短い川なので、降ると一気に水がでる。 ○ 7.11 水害のときには、田んぼが流される被害にあった。 ○ 水害後の改修で治水はよくなった。(他1件) ○ 田んぼの被害くらいはあるかもしれないが、住居は心配していない。河川敷は広がった。 ○ 7.11 後の改修の特徴的なものは、島田橋、地震滝橋だ
利水		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小袴川は昔より水量が減った ○ 川がきれいになったとは思わない ○ 昔は川に親しみがあり、泳いだり魚をとって遊んだが、今は川に親しみがもてない ○ 7.11 水害後の改修で川に淵がなくなり魚がいなくなった。今は川の流が速く、子供の川遊びを禁止している ○ 改修後 10 年を経て、少しずつ自然な感じになってきた ○ 昔は自分たちで草刈や道づくりをしたが、今は(国や県の管理となり)手を出せない ○ きちんと管理して川と触れ合えるようにしないと、多様な活動や親しみが育たない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小袴川は夏場に水がなくなる。昔より水量が減った。 ○ 上流の環境がかわった。下水処理場もできた。(しかし)水がきれいになったとは思わない ○ 子供の頃は川に親しみがあった。プールがなく、川の淵で泳いだりカジカとりなどした。トマト、スイカをもってきて食べた。昔、土路川や小袴川はハヤが産卵でたくさん上ってきた。子どもは手づかみした。マスもいた。祖父は投網をしていたが、上流のダム建設でとれなくなり、補償で畑をもらった。今は魚がない。今は川に親しみがもてない。 ○ 昔は体操の時間という、関川で泳いだり、今はプールで泳ぐ。 ○ 7.11 水害後の改修で川には淵がなくなり、カジカ、ハヤもいなくなった。今は7月になると大きいアユを放流している。川の水がはやく危ない。子どもの川遊びは禁止している。 ○ 7.11 水害から 10 年経ち、少し石が動いたり淵ができたりして自然な様子になってきている。魚も見erようになってきた。(他1件) ○ 内水面漁業組合から遊魚券なども買っている。 ○ 妙高中央橋の下の水辺に、「魚影」の一里塚がたっている。 ○ 若い頃は年 2 回は草刈した。状況によって随時刈っていた。 ○ 昔は川原の石を使って自分たちの通る道をつくったりした。今は、管理道路もできたが、自分たちで道をつくる手段がない。 ○ 河川公園の管理道路は、一昨年の土砂崩れで埋まったままであり、復旧してほしい。川に行かないと親しみはもてない。 ○ ヤマメの卵をふ化させて、放流している若者のグループがある。 ○ 管理道路の整備で川にもっと親しみが持てる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域には小袴川、土路川、関川の3つの河川がある ○ 高齢化で被災をきっかけに田んぼをやめる人もいる ○ 山から流域を考えたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川のイメージは土路川ではないか。大鹿全体だと関川が主流。 ○ 見学会では、土路川、小袴川の合流点も見るとおもしろい。 ○ 高齢化が進んでいる。土路川から水をひいて田んぼをやっていたが洪水で流され、やめた人もいる。そうすると、川に対する関心もなくなってしまう。 ○ この辺は山間地であり、山の話から流域を考えてほしい

すぎのさわ 妙高市杉野沢区

関川
上中流

■ 地区の紹介

- 255 世帯 813 人(平成 18 年 6 月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・**H7** (**太字**の年に被災)
- 概要
 - ・ 妙高山南麓に広がる杉ノ野原スキー場に近い観光市街地です。
 - ・ 標高 700mほどの傾斜地に住宅や旅館・民宿が並んでいます。
 - ・ 関川には緩傾斜の護岸や芝生広場等が整備されていて、川遊びをはじめとしたレクリエーションの場となっています。

※アンケート調査は杉野沢区の小谷沢、西町、池田、中村地区を中心に実施。

※意見交換会は杉野沢区で実施。



市街地と黒姫山



関川(親水公園)



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 6 月 22 日（木）
- 場 所：杉野沢総合センター
- 出席者：6 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 水害前は川が流れる道を変えながら蛇行していた ○ 改修後は水が速やかに流れていくので安心である ○ 小谷沢の人は川に詳しく、昔から被災していないことを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 水害の前は幅 20m くらいの川が、流れる道を変えながら蛇行していた。改修後も、多少は変化し、蛇行している。川から離れると 70～80 cm くらいの丸い石（以前の河原）が残っている。 ○ このあたりの関川は 7.11 水害後の改修で良くなった。 ○ 洪水については、川の水がサーッと流れていくので、この辺は助かっている。 ○ 小谷沢の人は、昔から川をよく見ており水害について非常に詳しく、また、昔から災害に遭っていないことを知っているので、特別逃げたりしない。（他 1 件） ○ 住んでいる人のなかには、何世代も前から住んでいる人もいる。リゾートに住んでいる人は少ない。
利水		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下水道の整備が遅れている ○ 上流域での下水道整備は流域全体のためである ○ 川で遊んでいるのは長野県などよその人である ○ 地区の子供は川にいかない ○ 子供に対して発電用ダムの放流などの注意喚起が必要である ○ 7.11 水害後の改修で親水公園化されたが、昔の川の姿を知るものがっかりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下水道の整備が遅れている。ここは地区面積のわりに戸数が少ないため、下水道整備に関する個人負担が大きくなってしまう。上流域での下水道整備は、流域全体のためだと思ってほしい。 ○ 特に小さい河川で、（生活排水により下流の水質に影響を与えているという）、そういう思いが強い。 ○ 川でキャンプしたり、イベントを行っているのは、他所からくる人、子どもたちだ。長野県の人でも海より近いのでよく訪れる。 ○ 地区の子どもは川にいかない。地元の子供も、他所の学校のピオトープなどへ行って遊んだりしている。 ○ 改修後環境が良くなり親水公園が整備されたが、水が出たときに心配。上流に笹ヶ峰ダムなど発電用ダムがあるため水位の変動が激しく、川遊びする子どもの安全に配慮が必要である。 ○ 子供に対して、ダムの放流などの注意喚起などがない。 ○ 以前は川辺に林がうっそうとしていた。7.11 水害後の改修で木がなくなり、大きな石も砕いて、以前の面影のまったくない、住民にすれば、非常にがっかりするような川の姿になった。
その他		

かすがしんでん
上越市春日新田自治会

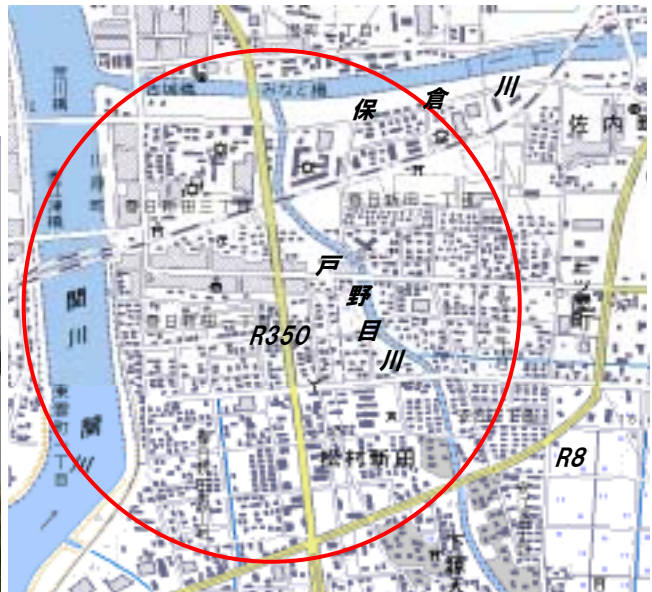
保倉川
下流

■ 地区の紹介

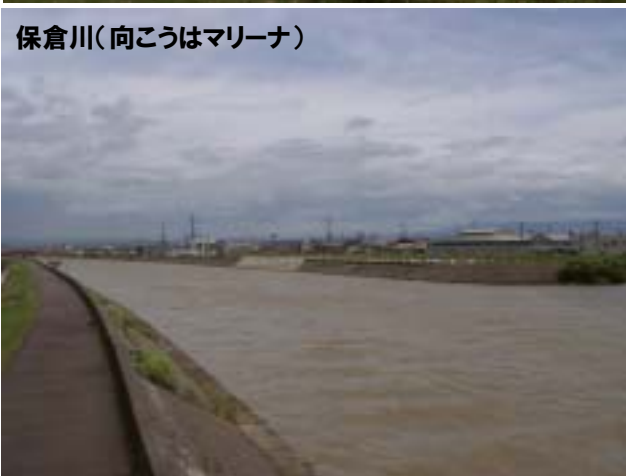
- 1458 世帯 4364 人(平成 15 年 7 月)
(春日新田 1 丁目～5 丁目)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・H 7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 上越市の北部、関川河口、保倉川、戸野目川の合流地点にある洪水多発地域です。
 - ・ 戦後開発された市街地で、工場、運輸業務施設、住宅などが集積しています。
 - ・ 関川、保倉川は川幅が広く護岸がコンクリートで固められています。
 - ・ 保倉川にマリーナが整備されています



関川(対岸は春日新田)



保倉川(向こうはマリーナ)



戸野目川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 21 日（金）
- 場 所：青年会館
- 出席者：8 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ ここは水害常襲地帯である。大雨が降ると水がじわじわと上がってくる ○ 堤防改修により川からの浸水の不安はないが、以前田んぼだったところや用水から水がくる ○ 家を建てるときに床の高さを上げている ○ 樋門の管理に問題がある ○ 国直轄と県委託のちがいはなにか。不法係留への対応が遅かった。 ○ 保倉川の分流も考えなければならぬ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の時から水害に遭っている。昭和 20 年は床上 1.5m の浸水でボートで炊き出しをした。昭和 40 年は直江津駅前が水浸しになった。平成 7 年は床下程度だった。今の家は 1.5m あげた。雨が降ると寝ないで橋のそばから川を見ている。この辺は、じわじわ水が上がってくる水害なので、家財は片付けられる。 ○ 水害のない所からきて水つきに遭った。改修されたが大丈夫か ○ 7.11 水害では床上浸水だった。10 年に 1 回は水がつく。高い堤防を作ったので川からの浸水の不安はない。現在は雨の後、三ッ橋などから水が寄ってくる。 ○ 家を建てる時は気をつけた。石垣の下あたりまで水がつく。昔の集落は水害のない所にある。新しい団地は水害に遭う。 ○ 排水がないので、樋門の管理が問題である。7.11 水害の時、夜樋門を見回った。樋門を開けられずカッターで切るかと話した。 ○ 戸野目川の水位が下がっているのに樋門を開けないのは問題 ○ 国直轄と県委託の違いはなにか。上越土木事務所が係留禁止看板を立てているが、不法係留は 6 割が長野県で雨が降ってもすぐに来られない。やっと強制執行したが役所の対応が遅かった。田が無くなってきたので支川が氾濫し、その水がこちらにくる。 ○ 昭和 40 年以後、表からの水害は無くなったが、神社の裏の用水が、水が落ち着いたころ水が上がってくる。この地域の関心は治水であり、治水を考えていかなければならない。保倉川分流も考えなければならぬが利害が絡み難しい。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利水は農業が主である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利水は中江用水など、農業に係わることが主である。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔は川で遊んだが、今は水質が悪いので危ないといわれる ○ 都会の川よりきれいなはずだし、河川敷や川で遊べるようになるよ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔は水が良い悪いに関係なく、泳ぎ水遊びした。今は川に入ると汚染されているから危ないという。千曲川の河川敷は広くてマレットゴルフ場などがあり、気軽に遊ぶことができる。こちらは河川敷に土砂が貯まり遊べない。関川もそのような計画があるというがどうなっているか。 ○ 都会の川は川辺が整備されている。ここは自然のままである。 ○ 田舎の川は都会よりきれいなはず。関川はカヌーをこいだりしているがあまり行き来がない。川で遊べるようなことがあれば良い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政と住民が話し合うのは難しい。行政は機会を提供しないし、住民からは話しかけない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みなさんと話したいというが、話しても駄目である。災害、事故があって初めてする。今まで、行政はそんな機会など持ってくれないし、住民も持っていく術もない。計画があるから、意見を聞かせてほしいという言うが、進んで住民からは行かない。 ○ 国・県はお互い顔色を見ている。本当のコミュニケーションを取っていない。横のつながりを取っていない。たらい回しにされる。 ○ 県から頼まれて、佐内橋から下の堤防の管理をしている。

やすえ 上越市安江2丁目自治会

保倉川
下流

■ 地区の紹介

- 240世帯 694人(平成15年7月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 関川、保倉川の合流地点に近く、国道8号と保倉川支川の戸野目川、面川に囲まれています
 - ・ 市街地は区画整理され、住宅のほか、国道沿いに商業業務施設が並びます
 - ・ 河川の法面を草が覆い、水辺へのアプローチを阻んでいます



街並み



戸野目川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 5 日（水）
- 場 所：子どもの家
- 出席者：15 名（女性 1 名）

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ ここは水害常襲地帯である ○ バイパスができて余計水害になっている気がする。 ○ 河川改修、排水ポンプなど適切にしてほしい ○ 水防活動について行政の指導支援が欲しい ○ 行政は横のつながりを強化し、情報を流して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地域は水がすぐ溜まり、水害の苦い経験がある。水害にならないようにしたい。 ○ 上越が水害というときは安江というくらい水害常襲地である。 ○ この地域には水害常襲地帯があり、そこを支援して欲しい。最近上越市で総合訓練が行なわれたが水防ではなかった。 ○ 当面ここは水害がおおきなウイトをしめている。 ○ 保倉川の分流はどうなったか。 ○ 7.11 水害からは浸水していない。豪雨も無い。 ○ 盛土のバイパスができて余計水害になっているような気がする。 ○ 7.11 水害の時、面川(おもいがわ)が役立たなかった。バイパスを越えて水がきた。 ○ 笹ヶ峰ダムの放水があっても水がつくのではないか。(他1件)それらの情報が欲しい。(委員:この地域の水害に笹ヶ峰ダムの放流はほとんど影響ないと考える) ○ 戸野目川の堰がある所に、排水ポンプを付けて欲しい。可動式はあるが役に立たないので、固定式を要望している。 ○ 市や県に面川を戸野目川の支川にして欲しいと頼み、H15 に認めてもらった。支川になれば、改修の見通しがたつ。 ○ 川はどこから整備するものか。 ○ 新井等上流の方ばかり整備しているように思う。 ○ 行政の指導支援が少ない。 ○ 一町内ではどうしたら良いかわからないので教えてもらいたい。隣接町内会と合同でやる方法もあれば教えてほしい。 ○ 行政は縦のつながりはあるが、横の連携がないように思う。 ○ 関川の水が多くなると、保倉川がはけない。そうすると、戸野目川がはけなくなり浸水する。そうした動きの情報がほしい。 ○ 防災無線が役に立っていない。 ○ 赤倉でダムの放水の時サイレンを鳴らしている。
利水		
環境		

にしふくしま
上越市頸城区西福島2区自治会

保倉川
下流

■ 地区の紹介

- 300 世帯 1006 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 頸城区のほぼ西端にある市街地です。
 - ・ 地区南部を保倉川が流れ、北部に水路が整備されています。
 - ・ 保倉川の南側には工場が並び、北側の市街地は区画整理され住宅が立ち並びます。
 - ・ 堤防は土盛で、草に覆われています。



保倉川



街並み

堤防に面した住宅街



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 18 日（火）
- 場 所：西福島二区公民館
- 出席者：11 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水害経験が多い ○ 保倉川に排水することができない ○ 保倉川の堤防はかさ上げされたので安心だが、水田を埋め立てて宅地化してから水が吐けず、浸水被害ができた ○ 天気予報の精度が上がったので、出水に対応できる ○ 保倉川分水は大きな課題である ○ 自分で備えることも必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水害経験は多い。7.11 が一番ひどい。国道 8 号ができて水はけが悪くなった。 ○ 保倉川は高低差がなく南川用水の排水が機能しない。保倉川の樋門は排水機能がないため住宅地の雨水が溜まる。 ○ 保倉川の堤防をかさ上げたので安心している。 ○ 大雨が降って裏の用水に水がつくと水門を開けて田に流しているが、田んぼを埋立て宅地ができてから水がはけない。(他 1 件) 浸水は人為的な問題だと思う。 ○ 保倉川の水深はどれくらいか。 ○ 保倉川が決壊しなければ大丈夫だと思うが、こんどは濁川に流さなければダメではないか。 ○ 現在は、天気予報の精度がよいので(出水の)予測ができる。昨年も国土交通省の排水ポンプ車を設置してもらった。 ○ 十数年いるが 10 回以上水害に遭った。7.11 は床下浸水だった。保倉川の分水が大きな課題だと思う。 ○ 保倉川上流からきたが、こちらでは車庫に土嚢を積む人がある。 ○ 山の保水力を上げれば雨が降っても水が直ぐに流れてこない。(他 1 件)
利水		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保倉川の水は濁っている ○ 以前は川で遊び、魚をとった ○ 今は子供を川で遊ばせない ○ 河川改修により人が川から遠ざけられた ○ きれいで人が集まる川にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安塚からきて、保倉川はこんなに濁った川だったかと思った。 ○ 保倉川は泥で埋まっていないか。濁りだしたのはいつごろからか。 ○ 桑曾根川との合流あたりで河川改修後の護岸が崩れている ○ 山にも問題がある。昔は水が澄んでいたのに濁っている。川にもハンノキなどがあつた。河川改修で無くなった。(他 1 件) ○ 団地が出来てから排水に油がでる。保倉川に流れ込んでいる。 ○ 昭和 40 年頃はきれいな川でテナガエビ、ウナギ等が沢山いた。 ○ 昔は保倉川に入って遊んだ。冬はスキー場になった。三日月湖で釣りをした。水質のパロメーターとなる生き物は何もない。 ○ 今は親も子供が川に行く心配なので「行っては駄目」という。 ○ 今の護岸はコンクリートで覆われ水面より 1m も高い。大人も落ちたら上がれない。河川敷がない。水面をもっと近くにできないか。 ○ 河川敷が一箇所広がっているが、増水時に土砂が貯まるのでイベントはできない。きれいにしても翌年は埋まる。関川は河川敷が広い。保倉川の対岸は遊歩道があるがこちら側はない。 ○ 災害を考えた(河川改修は)自然と相反するのではないか。 ○ 川は癒し・いこいの場だと思っている。昔のようにきれいで人が集まる川にしたい。桜並木をつくったらどうか。(他 1 件) ○ 川そのもののイメージがよくない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車を通し地固めした方が堤防にもよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車を通し地固めした方が堤防にもよいのではないか。 ○ 反対側はアスファルト舗装されているが、こちらはどうするのか

のぞみがおか
上越市頸城区望ヶ丘自治会

保倉川
下流

■ 地区の紹介

- 91 世帯 298 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:あり
S56・S57・S60・**H 7** (**太字**の年に被災)
- 概要
 - ・ 頸城区の南西部、保倉川に面した新興住宅市街地です。
 - ・ 区画整理された宅地に比較的新しい住宅が並んでいます。
 - ・ 保倉川の堤防上から水面を垣間見ながら散策できます。



市街地沿道



保倉川

保倉川堤防



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 6 月 2 日（金）
- 場 所：望ヶ丘コミュニティセンター
- 出席者：13 名（女性 1 名）

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 水害で大きな被害を受けた ○ ここは宅地が多いので、治水を最優先にして欲しい ○ 河川形状、調整池や分水路など、わからないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.11 水害で(大きな)被害を受けた。(他1件) ○ 当時は堤防が低かった。保倉川が逆流して越水した。 ○ 水位が急上昇し、車を出すのが精一杯で怖かった。住宅は床上 50cm以上浸水し、避難生活も経験した。県道の西側は水が流れ込まず助かった。桑曾根川の改修は河口までされているか。 ○ 一昨年(7.13)水害のこともある。保倉川は大丈夫か ○ ここは宅地が多く、治水最優先でお願いしたい。(他1件) ○ 激特後の改修が終わったが、その後砂がたまってきた(中州の堆砂)ので、早くとってほしい。上流の整備もしてほしい。 ○ 町内を流れる排水路は、保倉川へ排水しているが、雨がふるとすぐ溢れてしまう ○ 川の水がはききれない。桑曾根川の堤防を高くしてほしい ○ 現在改修中だが、大雨時に被害がないようにしてほしい。 ○ どの程度の川幅、深さ、堤防高さなら安全なのかわからない。 ○ 調整池は効果があるのか。 ○ 保倉川分水路の計画はあるのか。 ○ 旧河川跡を利用することなど考えて欲しい ○ 保倉川は昔、縦横無尽に流れていた。人の手が加わることで、災害がおこるのではないか。
利水		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保倉川の水は、上流はきれいだが下流は汚い ○ 子供の頃は魚もいたし、川遊びもした。川に親しめるような構造にできると良い ○ 環境についてはこの地域だけではどうしようもなく、あきらめている人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上流から流れてくるのでしょうか。泥なのか濁りがひどい 10~20 年前はボウなどもいた。ニゴイ釣もした。 ○ イメージとして透明な水の流れる川がいい。 ○ 新潟のやすらぎ堤のような川に親しむ構造にしてほしい。具体的に何ができるか非常に関心がある。子どもの頃は川遊びもしたが、(今はしない)。この付近は安全のため立ち入り禁止の箇所もある。今は悪臭がないのが、せめてものなぐさめである。 ○ ペットの散歩をしているとゴミやふん害が目につく。看板だけでなく捨てにくい環境づくりをしてほしい。 ○ 小学生の娘が総合学習で「保倉川探検」をし、下流から上流の源流までいっしょに歩いた。上流は水が非常に綺麗だったが下流にくるにしたがって汚くなった。堤防の際を利用できないか？よそには川に降りる階段も見られる。公園など水際を利用できるようになったらいいと思う ○ アンケートで環境のポイントが低いのは、この近くの川を知っていて、あきらめているからではないか。この地域だけでは、どうしようもない。夏には水もなくなる。

えのい 上越市頸城区榎井自治会

保倉川
下流

■ 地区の紹介

- 35 世帯 159 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H 7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 頸城区北西部に位置する水田地域です。
 - ・ 北陸自動車道の近くに集落が形成されています。
 - ・ 農業用水路が地区内を巡っています。
 - ・ 瀧川が近くを流れ、堤防上を散策できます。



瀧川



集落街並み



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 4 月 14 日（金）
- 場 所：榎井集落開発センター
- 出席者：8 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農家以外は水害は受けない。農地の排水が悪い ○ 水について困っているところを親身に 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ここは水害にあまり困っていない。農家以外は直接被害はない。 ○ 夏場に雨が降ると水浸しになった。下米岡あたりでは昨年も三日間、稲が水に浸かった。排水が悪いのが現状である。 ○ 排水が悪いが水害で避難したことはない。 ○ 信越化学のあたりは、雨が降る度、水がつく。困っているところに親身になってやった方がよい。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔から榎井の用水は重要だった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 榎井川の用水は昔から重要な用水である。榎井で田植えが終わらないと下流域は田植えができなかった。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保倉川の水は常に泥水である ○ 昔は魚とりなど川遊びをしていた ○ 今はコンクリート護岸が造られ生き物が減った ○ 昔はみんなで川を利用し管理していたが、今は誰の役割かわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ きれいな川は清流が流れているイメージがある。保倉川は常に泥水である。 ○ 子供の頃(50 年前)、魚やザッコ(魚)、シジミ取り、水遊びをよくした。その頃の川が懐かしい。川はU字側溝になってしまっている。 ○ 心の潤いが大事であり、川に渡り鳥が飛んでくるところがよいと思う。昔はサクラマスやヤマメが上っていたと思うが、今はコンクリートで堰堤が造られ、(いなくなった。)人間が自然環境を壊している。 ○ タモを持ってコイ、フナ、ナマズを捕った。上流の幅広いところでは、糸を使って魚を捕っていた。昔は大根を川で洗い馬も牛も川で洗った。春は皆で川を掃除し大事にしてきた。今は工場地帯ができ、誰が川を管理するのか解らなくなった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ このあたりは用水路しかない ○ 治水、利水、環境の流れで住民も考えていかなくては ○ これらの意見はどうなるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川のイメージといってもこのあたりは田んぼの用水路しかない。あるいは三面護岸をイメージしているかもしれない。(他 1 件) ○ 治水、利水、環境の流れで住民も考えていかなくては。川だけを考えてもダメ。海も森が必要。杉は根が浅いため雨が降ると崩れ災害が起きる。行政が横のつながりをもって取り組まなければいけない。 ○ 農業、用水、維持管理、水が重要である。 ○ 「国土を守る」という観点が必要である。 ○ 委員会としては、地域の意見を聞いて具体的にどうするのか。

■ 地区の紹介

- 45世帯 156人(平成15年7月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 保倉川の支流となる桑曾根川に近い集落です
 - ・ 高田平野の周縁部にあり、水田の背後に丘陵地があります
 - ・ 桑曾根川は蛇行していて、川岸は急斜面の樹林となっています



桑曾根川にかかる端



水田と集落



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成18年4月2日(日)
- 場 所：北代集落開発センター
- 出席者：15名(女性2名)

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川が蛇行し、河岸林ごと河岸を崩してしまう ○ 桑曽根川の改修を望む ○ 河岸林が抜けにくい護岸にして欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑曽根川は蛇行が激しい。 ○ 河岸林を植えたが風であおられると根が浮き、土ごと抜けてしまう。倒れると流れを塞いでしまう。 ○ 改修を早くして欲しい。7年前に測量したままである。(他3件) ○ 道路橋の改築も河川の改修法線が決まらないため手をつけられない。 ○ 崩れないブロック張護岸や直線化などの改修が必要だ。 ○ 現状をある程度活かしながら直線化を図っていくべきと考える。 ○ 河川管理者が手だてを考えるなら、蛇行河川でも良い。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稲作の水はため池を利用し、循環装置により水を節約している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稲作は阿弥陀寺池の水を利用しており、水を大切に使うために、循環装置をつけており、一年耕作してもため池の水はあまり減らない。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親しみやすい里山地域である ○ 良質な地下水がある ○ 桑曽根川はゴミが流れてくるなど環境が悪い ○ 処理水は汚染等に影響があるのか ○ 河岸が急で水際に降りられない ○ 危なくて維持管理も手伝えない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適当な丘陵地で里山の感じが良い。山菜やキノコ取り、山遊びなどができる非常に良い場所である。(他1件) ○ ぶどう園あたりの山で掘られた地下水は良い。 ○ 桑曽根川はゴミが流れてくるなど環境が悪く、早くから改修を要望しているが、進んでいない。川で遊べないので愛されず、関心も持たれない。改修されれば改善されていくと思う。 ○ 農業集落排水事業の処理水が桑曽根川に排水されているが、汚染等の影響はあるのか ○ 子供の頃は水がきれいで、白エビやハヤを網で採った。北代側からは急で降りられないので反対から降りた。今は、危険なので誰も川に近づかない。 ○ 年一度の川のクリーン作戦も危ないので断っている。 ○ 維持管理を地域がボランティアなどで行うところもあるが、住民も高齢化し負担も大きい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本日の説明を地区の皆にPRしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本日の説明を地区の皆にPRしていきたい。 ○ 風巻神社の祭が毎年8月にある。信仰のつながりがある。

うらがわら かみおか
上越市浦川原区上岡自治会

保倉川
上中流

■ 地区の紹介

- 41 世帯 163 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H 7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 浦川原区北西部にある中山間地域です。
 - ・ 丘陵の谷間に猿俣川が流れ、川に並行する道路に沿って集落が形成されています。
 - ・ 集落と川の間には水田が作られています。
 - ・ 猿俣川の川幅は狭く、両側には草が生い茂っています。



水田と集落



集落沿道

猿俣川



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 7 月 2 日（金）
- 場 所：上岡ふれあいセンター
- 出席者：12 名

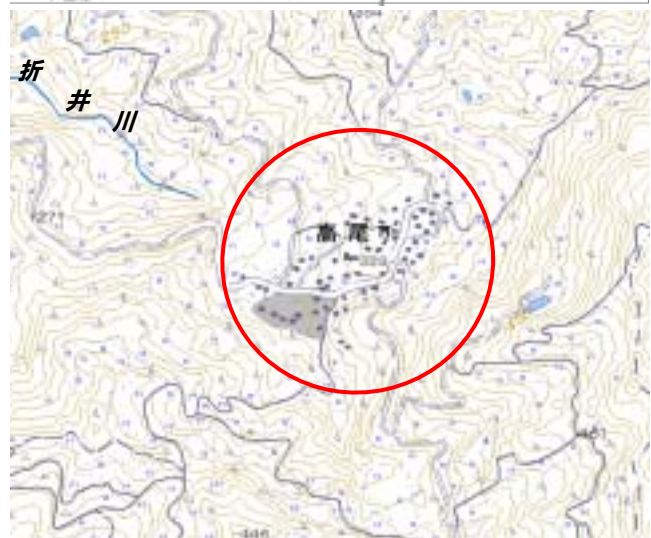
テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔は水害常襲地帯で河川改修が行われた ○ 改修済みのところと未だのところがある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔は洪水常襲地帯で床上浸水もあり、河川改修が行われた。 ○ 他所からきた時、なぜこんな大げさな川に(改修)と思ったが、住んでみてわかった。小さな川でもどこから水が集まるのかと思うほどすごい。 ○ 河川改修済みの地域と未改修の地域がある。猿俣川は半分程度しか整備されていない。保倉川まで 1.5km 位残っている。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主に天水、山の湧水、沢水を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 季節によって水量は変わる。融雪時期は多く、夏場は少ない。猿俣川の水も使うが、主に天水、山のわき水や、沢の水を使う。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨が降るとすぐ濁り、生活排水等が直接入るため、清流とはいえない ○ 合併処理浄化槽に移行しつつある ○ 河川改修されているが、川幅より流れの幅がせまい。 ○ 昔は川で遊んだ ○ 魚も獲ったが河川改修後、魚が上ってこなくなった ○ (河川改修により)川沿いに散策して眺められるようになったが関心が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活用水や農業用水が直接川に入る。地滑りの山であり、雨が降ると直ぐに濁る。濁りや汚染は化学物質か泥水の影響かで違う。ここは清流ではない。 ○ 現在、個々に合併浄化槽に移行中。始めたのは H15 秋ぐらい ○ 普段は、あまり流れていないが、雨の日は多く流れている。 ○ ほくほく線の工事で水量が減った。川はわりと緩やかで、ある程度の勾配と水量で、濁り、淀みがある ○ 下流は河川改修されているが、川の幅より川が流れている幅が少ない。見た目も良くない。川の中に川があるようだ。 ○ 三面張護岸の前は二面。今の1/3くらいであった。 ○ 昔は川で遊んだ。子供がザルをもって川にオロチヨを捕りに行った。今は河川改修で堰も多く、鮭も昇ってこなくなったせいもあるが、生活から川が離れていった ○ ホタルは今でも飛んでいる。 ○ 昭和 39 年に猿俣川が一級河川となり、勝手にしてはいけないことになり、誰も草を刈ろうとはしなくなってきた。「魚」はいる。川に行っただけである。猿俣川に堤防はなかったが、今では軽トラックで走れるようになり、散歩などして様子が見られるようになった。信濃川のやすらぎ堤のようになれば、関心も高くなるのではないか。川のそばで「あじさい祭り」を集落で行っているが、誰も川のイベントとは思っていない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 猿俣川をイメージする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地区の川として猿俣川をイメージした。

たかお 上越市牧区高尾自治会

保倉川
上中流

■ 地区の紹介

- 46 世帯 123 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H 7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 牧区の東部に位置する中山間地域です。
 - ・ 西向きの緩斜面に集落があり、周囲に農地があります。
 - ・ 地区内に農業用水路が流れていますが、幅が狭く、草に覆われていて水面は見えません。
 - ・ 「めだかのふるさと」をテーマにして、農業用水路でめだかを育てる活動をしています。



水田



集落沿道



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 6 月 14 日（水）
- 場 所：高尾活性化センター
- 出席者：9 名

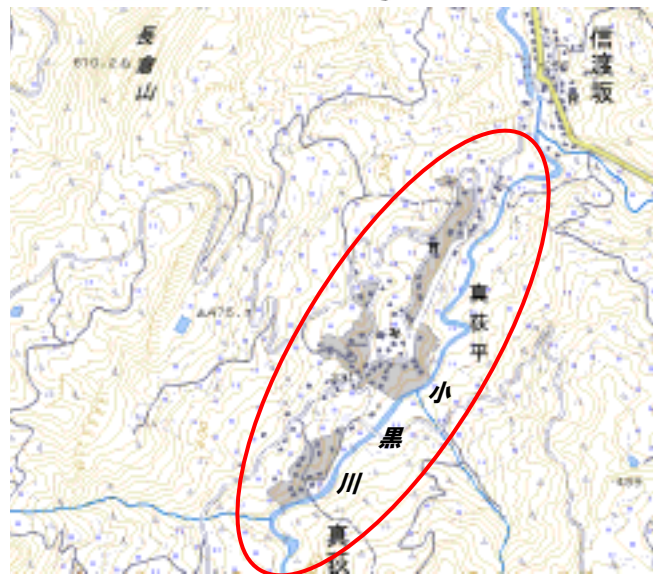
テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 折居川は水が溢れることはないが、地すべりが問題である ○ 地すべり防止のためには川や沢、棚田の管理が必要 ○ 地すべり防止のため地区外の人々の力を借りている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高尾は一級河川折居川の上流部に位置している。 ○ 折居川は川が深く、水害で溢れることはないが、地すべりがよく発生する。川といえば地すべりが思い浮かぶ。 ○ 牧区の 75%が地すべり指定区域となっている。 ○ 2年前に高尾～柳島間で地すべりがおきた。農地でないため、そのままの状態である。雪解け、泥水で水が濁っている。既存の堰堤が土砂で埋まっている。 ○ 7.11 の災害時の時は（新井方面に行き）、田んぼに岩、流木が流れ込むのを見て、川は恐ろしいと感じた。 ○ 棚田は冬に備えてゴミを取ったり、見廻りをしないとイケない。春には地すべりがおきる（他 1 件） ○ 平成 8 年から、県職員ら棚田サポーターに力を借りている。用水をひく側溝などを整備し、地すべり防止を図っている。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地域は棚田で雪解け水を利用している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 棚田で米を生産しているが、折居川から農業用水はとっていない。雪解け水を貯める。川に対してのイメージは、雪解けの黒く流れるイメージしかない。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひところより水はきれいになっている ○ 昔は川がきれい生き物も多く、よく遊んだ ○ 今は危ないので子供を川に行かせない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひところより水はきれいになったと思う。 ○ 川や沢をきれいになりたいと思うが、人がいないとできない。 ○ 子供の頃は川がきれいで、ホタル、ササガニも多く、よく遊んだ。今はゴミの収集業者が対応しているが、昔には戻っていない。川遊び、水遊びは危険性があるので、子どもには川に近づくなと教育している。 ○ よい子は川に行かないことになっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高尾住民がイメージする川は折居川である ○ 過疎化が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な川としてイメージするのは折居川である。 ○ 山から平場に出て過疎化が進み、さらに山が荒れる。

もおぎたいら
上越市安塚区真萩平自治会

保倉川
上中流

■ 地区の紹介

- 57 世帯 149 人(平成 15 年 7 月)
- 主要な水害の被災履歴: なし
S56・S57・S60・H 7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 安塚区のほぼ中央にある中山間地域です
 - ・ 東西に山が迫る谷筋に小黑川が流れます
 - ・ 左岸傾斜地に民家が分布し、小規模な畑や水田があります
 - ・ 川岸の大半が樹木や草に覆われ、大小さまざまな石の河原があります



集落



■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 3 月 25 日（土）
- 場 所：真萩平集落開発センター
- 出席者：6 名（女性 2 名）

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害を防ぐために、田や用水は自分たちで管理している ○ 小さい地滑りに対しては、町単位で対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨が降り始めると、用水や田んぼを見回る。後で大災害になる前に見回る。(他 1 件) ○ この地域は地滑りがある。大きいものは県や国が対処するが、小さい地滑りは町単位で対応する。みんな一緒に機械を使い、道路の土砂をどかす、杭を打って止めるなどしている。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地域は天水田で、雪解け水や雨水を貯めている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地域の水田は天水田(水源がなく雨水を利用)で、雪解け水を貯めている。(他 1 件)
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地滑りにより水が濁っている ○ 生き物が減った。魚が食べられなくなった ○ 魚の住みやすい川にしなくてはいけない ○ 都会の子供は川遊びが好き ○ 川への関心を高める必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学生の頃(50 年前)は川が遊び場で水が澄んでいが、田が崩壊して地滑りがおき、1 年中泥水になっている。田が減って(保水力が低下し)川の水が減り、藻が出てきた。(他 1 件) ○ 25 年前に来たが、その頃から水質はあまり変わらない。 ○ 水質を守るために合併槽を入れている。 ○ 昔は蟹・かじかを食べていた。今ではハヤなど夏は水質が悪くて食べようと思わない。背骨が曲がった魚も見る。 ○ 支流、水たまりにホタルがいるが、まだまだ少ない。 ○ かじか蛙も一時いなくなったが、最近また鳴き声が聞こえる。 ○ 生き物が大水で下流に流されるが、10mの堰堤があり登れない。生態系も考え、魚の住みやすい川にしなければならない。 ○ 民泊で都会の子供を泊めている。危ないといっても川に遊びに行く。 ○ 都会でやれないことを喜ぶ。子供たちは、山の農道を通るのが好きである。 ○ 近くに川があるのに、地域の人には行かない。 ○ 川についてもっと関心を持たないといけな。関心を持ってもらうためには川でイベントをするのが良い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ この会は川全体を良くするためか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この会は、支流まで良くすることで、川全体を良くするために行っているのか。

ほそごえ 上越市大島区細越自治会

保倉川
上中流

■ 地区の紹介

- 60世帯(平成15年7月)
- 主要な水害の被災履歴:なし
S56・S57・S60・H7 (太字の年に被災)
- 概要
 - ・ 保倉川上流にある大島区北部の中山間地域です。
 - ・ 道路沿いに集落が形成され、傾斜地に畑や棚田がつけられています。
 - ・ 保倉川は蛇行していて、流れの外側はコンクリート護岸で覆われています。
 - ・ 内側を中心に河原や草むらが見られます。



沿道



保倉川

■ 川や水とのかかわり
(意見交換会から)

- 実施日：平成 18 年 5 月 29 日 (月)
- 場 所：細越センター
- 出席者：8 名

テーマ	要 点	意見概要
治水	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地域では川底が掘れる。 ○ 掘れないような堰堤や擁壁を造って欲しい ○ 川底が掘れて浸水しなくなったが、水害への関心が薄れて住民は避難場所を知らなくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この地域は川底が掘れる。ここより下流は掘れていないし、4km程上流では土がたまっている。流れと曲がりの関係だと思う。 ○ 昔は堰があったが今はなくなり川が深くなった。(他2件) ○ 以前は水面まで1.5mほどだったが今は深くなったので2間梯子でも降りれない。 ○ コンクリート擁壁も川底が掘れる原因ではないか。木材を使うほうが良いのではないか。昔は木でできた沈床をやっていた。 ○ 川底に堰堤を作る、堰堤を細かく入れる等、してほしい ○ 小さな頭首工のようなものを造れば川底が下がらないのでは ○ カーブの内側を上げてほしい ○ カーブ、川底に堰堤を入れてほしい ○ 昔は川が浅くて水が出ると床下浸水したが、今は下がったので浸水しなくなった。避難場所をみんな知らない状況である。水害はあってはならない。
利水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川がさがっていざというとき消防ポンプがとどかない ○ 大ぶけ用水に対してなぜ市町村が負担金を出さなくてはならないのか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川が下がって、いざというとき消防ポンプが届かなくなった。 ○ 大ぶけ用水が水利権を持っている。農業用水に使っているが、市町村が負担金を出している。なぜ出さなければならないのか。 ○ きれいな水を流そうと合併処理している
環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひところは汚物を流すこともあったが、合併処理浄化槽を設置して、水がきれいになってきた ○ 昔は魚の種類も数も多く、刺身で食べることもあったが今はしない ○ 大ぶけ用水に魚道を造って欲しい ○ 昔は川で遊び、泳いだ。 ○ 清流を取り戻したい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保倉川の昔の面影が無くなった。一時汚物を流すこともあったが、合併処理浄化槽を設置してきている。 ○ 合併処理浄化槽ができてきて、川はきれいになってきた。単独浄化槽の頃は曲がった魚がいたが、少なくなった。 ○ 下流などの水質調査の結果を教えて欲しい。(他1件) ○ 30年前、川はきれいにとった魚を刺身で食べたが、今はしない。 ○ 65年ほど前、魚がたくさんいて種類も多かった。今は減ってハヤだけ。災害の工事の仕方が問題だと思う。アンケート調査結果で川が澄んでいるというのは納得いかない。50%くらいは濁っている。 ○ 浦川原地区に農業用の堰堤があり、ヤツメウナギなどがあがってこない。魚道を造ってほしい。都市との交流で小中高生を招いている。川をきれいにして小中学生に遊んでもらえるようにしたい。 ○ 昔は川でよく遊び、泳いだ。 ○ 大切にしたいのは、清流。昔に戻したいのが願いである。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関川といわれてもピンとこない。保倉川と書いてない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関川水系といわれてもピンとこない。保倉川と書いていない。(他1件) ○ この調査は環境面だけなのか。